



博物館の原理に関する研究—空間・集い・経験（2）

▶ 2020年12月18日（金）17:30 - 19:30

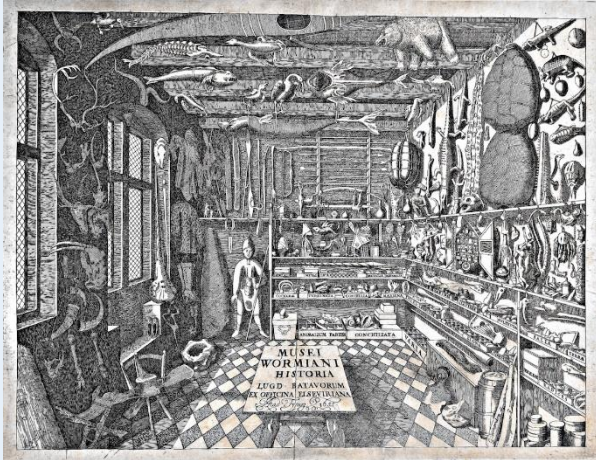
事前登録制

▶ 申込み：Zoomによるオンライン開催。12月15日（火）締切で、下記URLより申込みください。

<https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/open-seminar/2020/research-museum-principles/>

【報告者】

- ◆ 新藤浩伸（東京大学大学院教育学研究科・准教授）
- ◆ 今井尚（朝日小学生新聞／都留文科大学卒業生）
- ◆ 北垣憲仁（都留文科大学地域交流研究センター・教授）
- ◆ 伊藤瑠依（デザイナー／都留文科大学卒業生）



オレ・ウォルムの「驚異の部屋」



ムササビの滑空

【概要】

本研究は博物館の原理の探究をテーマに据えてきたが、前回2020年2月上旬のオープンセミナー時には予想もしなかった事態を経て、「空間」「つどい」「経験」という本研究の根幹がいずれも大きく揺さぶられることとなった。ものと人との関わり方をどう築き直していくか、という本研究の問いをめぐり、報告者の私達は未だ戸惑いの只中にあるが、これは現在各地の博物館が、そして社会が直面する問いでもあるかもしれない。

今回の報告では、前半では、驚異の部屋の歴史や陶冶の空間としてのミュージアム等の、近年の博物館研究の成果の検討を行う。後半では、前回セミナーでも登壇して頂いた都留フィールドミュージアムに関わってきた方々と、コロナ禍以降のものと人の関係や、地域社会の変化などをめぐって意見交換を行う。これらを通じて、今後引き続き進めていく博物館の原理研究に向け、一旦の着地点を探りたい。